



校庭のさざんか 例年より1か月遅れの開花

20年ほど前から、自宅の小さな水槽で、観賞魚の繁殖を始めました。特に勉強したことはありませんが、あれこれ試行錯誤を重ねるうちに、コツのようなものが身に付きました。今では、学校の水槽を含め、多くの魚の繁殖に成功しています。自分が孵化させた稚魚が大きくなっていくことは、何よりの喜びであり、お店で購入する魚と違って格別です。不思議なのは、同じ時期に孵化し同じように愛情を注いでエサを与えているにもかかわらず、大きさや色・模様がばらばらです。成長のスピードもそれぞれ違うということです。まるで子育てのように思います。私には3人の子供（3人も成人しています）がいますが、同じ親、同じ家庭環境の下で育ったはずなのに、3人とも見た目や性格が全く違っています。不思議なものです。



エンゼルフィッシュの産卵

教育になぞらえて言うと、同じ教材を使い、同じ指示を与えても、受け取り方は子ども一人一人で違います。こちらで伝えたいというメッセージと、子どもが受け取るメッセージは、ピタリと一致することはありませんし、子どもたちの間でもピタリと合うことは稀です。魚の成長と同じように、成長のスピードも、ものの考え方も性格もそれぞれに違います。2学期の始業式で、全校の子どもたちに紹介した SMAP（スマップ）の「世界に一つだけの花」で歌われているように、「小さい花や大きな花、一つとして同じものはないから、NO.1にならなくていい、もともと特別な Only one」なのです。そういう意味で、私たち一人一人が「特別な人」なのだと思います。

「特別な人」と聞くと、私たちは、大谷翔平選手や三苫薰選手、藤井聰太棋士のような秀でた能力を持った人を想像しがちです。しかし、みんな違っているという意味では、みんなそれぞれ特別な人なのです。私も含めて人間というものは、とくに比べたがります。他人と比べてこの部分は優れないと喜んだり、この部分は劣っているとくよくよしたりします。子育て中は、どうしても自分の子供を他の子供と比べてしまします。学校の中でも、人と比べてしまうという危険性はあるかもしれません。

でも、みんな「特別な人」なのですから、比べる必要もないですし、くよくよする必要もないのです。成長が多少遅かったり早かったりはするものの、いざれはどんな花を咲かせてくれるのか、楽しみに待つていいと思います。先ほどの歌の歌詞にもあるように、「その花を咲かせることだけに、一生懸命になればいい」のです。

学校では、もちろん一斉指導もしますが、学びの過程を子どもたちに委ねています。自分のペース、やり方で学ぶことを進めています。そして、各自が発見した異なるメッセージを周囲と共有させています。こうした過程を通して、子どもたちがそれぞれ「特別な人」である自分を受け止め、ほかの「特別な人」たちを受け入れて協力する態度を育てようとしています。違っているからこそ、この世界は循環し、調和していくのです。これからも、保護者や地域の皆様と協力し、たくさんの「特別な花」を咲かせていきたいと思います。



4年 信楽校外学習

4年生は、滋賀県の伝統工芸を学ぶために、信楽方面に校外学習に出かけました。

宗陶苑では、陶芸を体験させてもらい、一人一つの陶器を制作しました。また、現地で登り窯の説明を受けながら見

学しました。信楽焼を体験し、「世界で1つだけの陶器」を制作する中で、伝統工芸の素晴らしさに触れる良い機会となりました。短い動画にまとめましたので、左のQRコードからご覧ください。

4年 信楽校外学習

紙面配布のみ表示



期間限定 3/3~3/31



フローティング
スクール



5年生は、1泊2日でびわ湖フローティングスクールに出かけました。雄琴小、日吉台小とともに、他校の友達とも力を合わせ、貴重な体験をしました。班活動で、不安もあったかもしれません、事前に学習を積みながら当日の活動を迎える。係の仕事に責任を持ち、初めて出会う他校の友達と息を合わせ、多くの交流を持ちました。滋賀で育った人として、琵琶湖と向き合う絶好の機会となり、また、多くの気づきがあり、素敵な思い出となりました。2日間の活動の様子を動画にまとめましたので、ご覧ください。

5年 フローティング

紙面配布のみ表示



期間限定 3/3~3/31

わにっこギャラリー アンケートより

2月4日からの「わにっこギャラリー」をご覧いただいた皆様から多数、感想をいただきましたので、その一部を紹介します。

- ★和邇小の子どもたち、みんな頑張っていますね。
- ★いつもステキな作品を見せていただいています。かわいいスタンプのシール、いただきました。
- ★6年生の鳥獣戯画がとてもすごかったです。
- ★3年生の詩は感性が磨かれて良いですね。
- ★2年生のだいこん、どれも個性的でたのしく拝見しました。わにっこギャラリーファンクラブより



6年 防災イベント 2/4・5

6年生は、1年間にわたり取り組んできた防災学習の総まとめとして、自分たちの学びを全校児童に伝えようと「防災イベント」を開催しました。クイズあり、製作体験あり、ビデオやスライドありで、下学年に分かりやすく伝えるための工夫をしっかり考えていました。



シリーズ 「未来への扉」 第13弾 「読書と読み聞かせ」

このコーナーは、子育てと子どもの幸せをサポートする情報を提供するニュースレターです。子育てのヒントやこれから時代に大切にしたい教育の話、健康で幸せな生活に役立つ情報を掲載したいと考えています。子どもは「地域の宝」です。未来をたくましく生きる子どもたちにつけてほしい本当の力とはいったい何か、子どもが生涯にわたり幸せに生きていくには、周囲の大人はどんな関わりを大切にしていけば良いのか、共に考えていきたいと思います。第13弾は「読書と読み聞かせ」についてです。



学校のニシキアナゴ
本文との関連はありません。

自分の子どもには本好きになってほしい。こんな思いを抱く親は多いと思います。スマホやYouTubeに夢中になっているわが子と、好きな本を静かに読んでいるわが子。子どもが中学生、高校生に成長したとき、親としては後者の方を望むのではないかでしょうか。

子どもに育みたい資質能力は、読解力や想像力、思考力、表現力などで、読書活動には、読むこと自体の楽しさの他に、充実感や満足感が得られます。子どもの頃の楽しかった読書体験は、生涯にわたる学習意欲やウェルビーイングに確実につながります。具体的な読書のメリットとして、語彙が豊かになる、知識が得られる、心が穏やかになる、表現力が高まる、読解力がつく、人間性を高められる、物語を楽しめる、集中力がつく、感受性が高まるなどが考えられます。さらに、子どもの学力向上に直接的な効果を発揮する(全国学力学習状況調査から)のも読書の強みだと思います。

それでは、子どもに読書の習慣を身に付けさせるにはどうすればいいのでしょうか。

まずは、親が主導して、子どもに本とふれあう機会を設けることです。まずは「読み聞かせ」です。子どもたちが寝る前の時間に読み聞かせをします。1冊は子どもが読みたい本、もう1冊は親が子どもに読んでほしい本です。毎晩やるのが難しい場合は、週末の夜だけでもいいので、子どもが本と出合う機会をつくってあげることが大切です。本に親しませるのは、早ければ早いほどいいです。ことばがわからない0歳からでもいいですね。逆に遅すぎるということはありませんので、今からでも心配する必要はありません。

読み聞かせの時間は、子どもに読書の習慣をつけさせるだけでなく、親と子の「物語の共有」「時間の共有」「場の共有」という素晴らしい記憶も残してくれます。子どもはあつという間に成長していきます。確かに読み聞かせは大変かもしれません。しかし、それができるのは子どもが小学校高学年になるまでの短い期間だけです。気が付けば、子どもはあつという間に親から離れていきます。

本の選び方を紹介します。0歳児には、本自体の素材が楽しめる厚みのある本、1歳になったら、言葉の響きやリズムがある本、2,3歳からは、簡単なストーリーを含んだ本、4,5歳になると、本好きの子どもは親に読み聞かせをせがんできます。よりストーリー性の高い本を読んであげるといいと思います。小学校低学年では、音の響きによって物語の内容をイメージして本の世界に浸っていきます。3,4年生は大きな分岐点を迎えます。このころになると読書をする能力が上がり、本のジャンルを広げていく時期です。より幅広く、より深く読書する時期です。主人公が冒険したり、不思議な世界に迷い込んだりする物語に興味を持ちます。子どもたちは主人公の気持ちに寄り添いながらストーリー展開を楽しんでいきます。高学年になったら、子どもが自分で選んだ本を読ませるといいと思います。読書を通じ、多様な視点から物事を考えられるようになります。まだまだ親の見守りは必要ですが、子どもの意見をできるだけ尊重してあげてください。

学校では、朝読書や地域ボランティアによる読み聞かせの時間(朝と昼休み)、図書室の開館、ミッケル号、読書貯金の取組、PTAベルマークで購入した本など、あらゆる手段で読書活動に力を入れています。本との出会いを数多く経験し、豊かな人生を築いていってほしい、これこそが、すべての保護者の皆様の願いではないでしょうか。



学校のディスカスの産卵
本文との関連はありません。